

## 日本学術会議の役割

## U053-10

# 入倉 孝次郎 [1]

# Kojiro Irikura[1]

[1] 愛工大

[1] Aichi Inst. Tech.

2005年の日本学術会議の大改革にともない発足した地球惑星科学委員会は、気象学、海洋科学、惑星科学、地球電磁気学、固体地球科学、地質学、自然地理学、地理情報学、一部人文地理学等、きわめて広範な分野を含んでいる。また、会員・連携会員は、学協会からの推薦等、ボトムアップ的に選出されるのではなく、会員がメリットベースで会員を選ぶ(コオプテーション)ため、学協会などの科学者コミュニティとの直接的なつながりをもたないという特徴をもつ。一方、日本の地球惑星科学のコミュニティは、旧来きわめて多くに細分された構造をもち、それらが互いに独自の活動を展開してきたため、分野に共通する研究・教育の在り方、人材育成の問題を議論する場がなかった。

新生の日本学術会議の役割は、内閣府直属の組織として学術のあり方等に関する政策提言、科学者コミュニティ連携の促進、国際交流、社会とのコミュニケーション、である。このいずれを進めるに当たっても重要なことは、コミュニティとしての統一的な外へ向けての対応とそのためのコミュニティ内部の統一的な意思の形成である。したがって、学術会議の役割は、統一的な意思の形成・その表出をするために必要なあらゆることということになる。このようなことは、単一の学会をもち、統一的な意思、長期展望をもつことが当然である物理学や化学コミュニティにとっては従来から行ってきたことであるが、地球惑星科学にとってははじめての経験で、他の伝統的科学者コミュニティとの決定的な違いである。

地球惑星科学の研究者コミュニティにおいては、学術会議改革に呼応するため日本地球惑星科学連合が結成され、数年の活動の後、単なる連合体から、法人化を通じ活動主体への転換を目指している。日本学術会議地球惑星科学委員会は、これに呼応し、コミュニティの連携、統一的な意思の形成、長期展望の作成、政策提言作りの中心的役割を果たすことが求められている。

地球惑星科学委員会では、地球・惑星圏分科会を中心として“地球惑星科学の現状と課題”を作成中であり、本セッションにおいてその一部が報告される。そこでは、サイエンスについては6つの分野につき、大学問題、地球惑星科学の大型計画における基礎科学のありかた、社会への貢献、国際関係、日本学術会議と連合の役割、等の10項目以上にわたり、それぞれの位置づけ、最近の進展・現状の問題、今後の課題、課題の推進にあたりなすべきこと、特にコミュニティとしてとりくむべきこと、についてまとめる予定である。

これらを通じ、我が国の地球惑星科学コミュニティの統一的な意思の形成、社会的発進力の増強、国際社会における地位の向上などを進めてゆく。